

ご挨拶

校友会 山桜会 会長
田口 順一 (小78期)



一年の中でたいへん過ごしやすいシーズンである秋は短く感じるもので、早くも肌寒い季節になってまいりました。会員の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

スポーツの秋、芸術の秋、食欲の秋…。9月、10月には、追手門学院各校において、文化祭が開催されました。各高校では開催内容運営がかなり生徒にまかされて、主体的に取り組む内容となっております。個性のある展示、劇、音楽などの舞台発表。模擬店など、まさに一人一人が楽しみながら自己実現の場として活用し、今後の思い出に残る活気のある文化祭でした。

また各校の体育大会においても、力いっぱい競技する後輩たちを見て、たいへん頼もしく感じました。2020年夏のオリンピック開催都市に東京が選ばれました。ひょっとしたら、この中からオリンピックに出場する選手がでてくるかも？

私たちは茨木 PTAスポーツ大会や山桜会ゴルフコンペに参加しました。後輩たちに負けないように頑張ろうと思いますが、結果はこんなはずではないのと感じる今日この頃です。

今年是一年を通じて皆様方よりご協力を賜り、お陰をもちまして、たいへん充実した会の活動となりました。誠にありがとうございました。

来年は恒例の新年会からスタートを致します。『これから羽ばたく若き後輩達を応援する』をテーマとし、1月26日(日)に開催予定です。是非皆様のご参加をよろしくお願い致します。

伝統を 打ち破る

追手門学院 理事長
川原 俊明 (小71・中高14期)



現代は過去の歴史の上に成り立っています。現在の追手門学院は125年の歴史の上に成り立っています。今の輝かしい学院の姿は多くの先達の努力の結晶です。私も、追手門学院を130年、150年、200年と未来永劫の歴史を刻み続ける学院でありたいと思います。卒業生の一人でもある立場として。

しかし、伝統の踏襲だけでわが追手門学院が存続できるほど甘い環境にはありません。少子高齢化、グローバル化、日本経済の不確定化、大学間競争の激化。追手門学院を取り巻く環境は少し前の時代と比べて様変わりです。

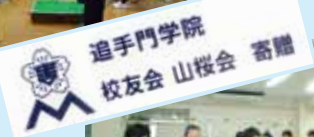
今の学院に求められているもの。それは「改革」です。「イノベーション」です。新しい発想のもとに、新しい学院を打ち立てることが必要です。とはいえ私学は建学の精神に基づいた教育こそが存立の基盤です。追手門学院の建学の精神である「独立自彊 社会有為」。この機軸をぶらしてはいけません。その上で過去の伝統にあぐらをかくことなく、新たな伝統を大胆に打ち立てていく。これが伝統を打ち破る意味での改革です。

追手門学院では、今年の4月、認定こども園を創設、大手前中高では数十年続いた過去の制服と決別。茨木中高ではスポーツコースに続いて来年4月から表現コミュニケーションコースの新設。大学にいたっては、1年間留学しても4年で卒業できるグローバルキャリアコースの新設。基盤教育機構のもとに学部横断型教養教育の実施。さらには2015年から毎年、新学部を設置していく計画。伝統を乗り越えて改革を突き進めます。追手門学院に新たな輝きををもたらすために。すべての卒業生の力を結集して改革を実現しましょう。

在校生支援



大手前中高にて



茨木中高にて

日頃、在校生にとっては縁遠い存在である山桜会ですが、もっと親しみやすい、頼りになる卒業生の会でありたいと思っています。

そこで、今年から在校生支援活動に力を入れております。

各校の校長先生とご相談のうえ、大手前中高には、チアリーディング部用マット2枚、吹奏楽部楽器購入費用の一部を、追手門学院中高(茨木)には、トレーニング機器とウォータークーラーを贈呈いたしました。

小学校は、まだ具体化できていませんが、何かお役に立てる支援策をと考えています。クラブ部長や生徒会長のとても嬉しそうなお顔を見ると、よかったなと思いますし、少しは頼りになる先輩と感じてもらい、山桜会の株が上がったのではないのでしょうか。贈呈したものを今後大いに活用していただき、後輩達の活躍を期待しています。

田口 順一 (小78期)